

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1271800581
法人名	医療法人社団 明生会
事業所名	グループホーム 咲顔(えがお)
所在地	〒283-0802 千葉県東金市東金1371-1 (電話) 0475-54-7720

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年1月13日

【情報提供票より】(平成20年 11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12人	常勤	12 人, 非常勤 0人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000)円	有りの場合 償却の有無	有(期間:30ヶ月)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(11月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東葉クリニック 東葉クリニック大網脳神経外科 井合歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東金の景勝地「八鶴湖」のそばにある緑豊かな住環境のグループホームである。理念は「あかるく やさしく あたたかい介護」であり、地域で安心し、明るく穏やかな生活が送れるように、職員と利用者は共にホームを作り上げている。ホームの名前である咲顔(えがお)は、花が咲くように自然に笑顔がこぼれるホームでありたいという、職員の願いが込められている。医療連携の一環から人工透析の高齢者を受け入れ、母体である透析専門の東葉クリニックが無料で送迎をしている。重度化した場合の対応にかかわる指針には、充実した医療連携から可能となる急性期対応や、看取り指針が盛り込まれている。JR東金駅より徒歩10分、1階がデイサービスで2階が2ユニットのグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘された事と、指摘されなかった事についても運営者と管理者が中心になり、職員と共に継続的な改善活動を行っている。例えば、食事については併設しているデイサービスの厨房で作られたものを提供している。しかし、ホームで入居者と共に盛り付けをしたり、温めなおしたりして工夫をし、月に3回ほど「お任せクッキング」と名づけ、皆でメニューを決めて買い物や調理をするなど具体的に改善しつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員の意見を聞きながら管理者を中心に行われた。指摘された外部評価項目は運営者、管理者、職員共に検討し改善活動へ繋げている。その他指摘されなかった項目についても定期的に見直し、より良いサービスが提供できるように努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催され、参加者は東金市高齢者支援課長、上宿区長、民生委員、入居者家族などで行われている。入居者の日常生活状況の報告や、家族や地域からの意見を聴取し、ホームの運営に活かし、サービスの質の向上を目指している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	管理者は家族との時間をできるだけゆとりとり、話しができるように努めている。入居者のいずれかの家族が毎日来訪されているホームで、管理者、または職員が1対1で話せる時間を作り、意見を引き出すようにしている。また、意見箱を設置しているが、直接意見要望を言える関係であり、苦情・相談記録を介護経過記録に記載している。今後は苦情・相談報告書のフォーマットを使用し、別に記録管理することが必要と思われる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員としてお祭りや集会等には積極的に参加している。本屋、手芸品店、パン屋、八百屋、理容店など近隣の個人商店を利用する事で、生活の中で地域交流を自然に行なえるようにしている。散歩などの外出時も職員が率先して挨拶等をする事で、ホームの事を知ってもらうようにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「あかるく やさしく あたたかい介護」である。地域で安心して、明るく穏やかな生活が送れるように、理念が実際のケアに生きるよう職員は入居者と共にホームを作り上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回のケース会議や日々行なわれる業務の中で理念を確認している。忙しいときでも笑顔(ホームの名前の咲顔)を絶やさず明るく穏やかに入居者に接するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としてお祭りや集会等には積極的に参加している。本屋、手芸品店、パン屋、八百屋、理容店など近隣の個人商店を利用する事で、生活の中で地域交流を自然に行なえるようにしている。散歩などの外出時も職員が率先して挨拶等をする事で、ホームのことを知ってもらうようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見を聞きながら管理者を中心にして行われた。指摘された外部評価項目は運営者、管理者、職員共に検討し改善活動へ繋げている。その他、指摘されなかった項目についても定期的に見直し、より良いサービスが提供できるように努めている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催されている。東金市高齢者支援課長、上宿区長、民生委員、入居者家族などが参加し、入居者の日常生活状況の報告や、家族、地域からの意見を聴取し、ホームの運営に活かし、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	東金市役所主催の地域密着型サービス事業所会議に参加し、ホームの状況報告や情報収集を行っている。介護保険申請代行等の時に、ホームでは対応困難と思われる事例などについて市役所の担当者と個別に意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には月1回定期的に写真による入居者の状況や、金銭管理の報告をホーム便りと共に郵便で送っている。また、健康状態、体調の変化や日常必需品等の依頼などはその都度行っている。管理者は家族の来訪時には時間をできるだけ多く取り、ゆっくり話しができるよう努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日のように入居者のいずれかの家族が来訪しているホームで、家族と管理者、もしくは職員が1対1で話せる時間を取るようになっている。また、意見箱を設置しているが、直接意見要望を言える関係で、介護経過記録にその要望が記録され、返答も記載されていた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職が最小限になるように努めている。止むを得ず交代しなければならない場合は、綿密な引継ぎと利用者に影響が出ないように対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の会議の中での研修や外部研修の受講を推奨している。外部研修は2、3ヶ月ほど前に案内がFAXで届くので、事務所のホワイトボードに貼って知らせている。職員が平等に必要な内容の研修を受けられるように配慮している。研修に参加した人はその内容等を会議等で報告し共有している。		管理者は積極的に職員の希望を聞いて、より良いケアを実現しようと人材育成には力を入れている。しかし、現状では、職員のレベルに合わせた人材育成が計画的に行なわれるまでには至っていない。法人内外の研修や働きながらのトレーニングを計画的に個別で行なわれることも必要と思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東金市役所主催の地域密着型サービス事業所会議や千葉県グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行いサービスの質の向上に役立てている。グループホームの相互訪問等を通してお互いの長所短所を認識し、ホームの運営に役立てていく方向である。		今後は管理者だけの交流ではなく、職員レベルでもネットワークづくりや相互交流の機会を持つことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>計画作成担当者は数回にわたり入居予定者の自宅を訪問し、馴染みの関係を構築しながらサービスを開始している。家族や親しい人から本人の情報を収集して、可能な限りその人らしい生活をホームで送れるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者と共に過ごし、お互い必要な関係になれるようにしている。また、長い人生経験の話をたくさん聞き、職員も成長している。入居者は職員と喜怒哀楽を共にし、生活を楽しんでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ホームでどのように暮らしたいか、何をしたいか、などの希望は入居時の健康状態や生活歴、習慣などの基本情報とともに個人ファイル(アセスメント)に記録される。入居後も日々の生活の様子や思いは、スタッフの関わりによって収集され、ファイルを通して全職員が把握できるようになっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は個人ファイルの情報を基本とし、入居者、家族、必要な関係者の意見も積極的に取り入れながら、介護計画を作成している。それを全職員にフィードバックし、介護計画の共有をしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月ごとにモニタリング(経過評価)し、見直しが行なわれている。しかし、その間にも見逃せない状況の変化が生じた場合には、本人・家族、関係者の意向を汲みながら、現状に即した介護計画につくり変えている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の一時帰宅や、遠方の墓参り、孫の七五三詣など外出支援を行っている。また、かかりつけ医への通院は家族が付き添うことになっているが、家族が付き添えない場合や緊急時にはホームの職員が支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は協力病院、かかりつけ医のどちらでも希望に応じて受診できる。とくに、かかりつけ医との連携に力を入れている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りの事例はまだないが、医療法人経営のホームとしては重度化した場合や終末期にも可能な限り対応したいとしている。	○	このホームは、在宅ケアの支援も行なう目的で立ち上げられた経緯がある。重度化や看取り期の方針についても関係者と話し合い共有することが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はどのような言葉や態度が入居者を傷つけることになるのか認識している。生活歴などによって一人ひとり異なるので、個人ファイルに記録し、職員間で情報共有できるようにしている。また、プライバシーにかかわる個人情報が不用意に外部に漏れないよう記録物の保管には十分注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など大まかに決められた時間以外は、入居者が思い思いに過ごせるよう職員は見守りに徹している。一日何をして過ごしたいか、入居者の意向が尊重され、一人ひとりの「一日の流れ」として個人ファイルに記録されている。入居者のなかには絵や俳句を楽しむ人などもいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は届けられる食材を使い、夕食は普段は併設サービス厨房で作られる。そこで月に3回ほど「お任せクッキング」と名づけた日を設け、皆でメニューを決めて買い物、調理もし、手づくり料理を楽しんでいる。また、それ以外の日も、取り置き食材を工夫した一品を加えたりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はおおむね昼食後になっているが、時には「夕食後に入りたい」という人もおり、遅番のスタッフが随時対応している。また、失禁等があった場合は、時間に関係なく対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の中にはみそ汁づくりが得意な人、裁縫が上手な人、食後の食器洗いを一手に引き受ける人などがいて生き生きしている。スタッフは「得意わざ」を持たない人たちにも呼びかけ、一日1回、皆で洗濯物を畳んでいる。	○	男性の入居者の支援はなかなか難しいと思われるが、庭木の剪定、大工仕事など得意なことや好きなことがあいながら、行動に移そうとしない人の「出番づくり」が期待される。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の惣菜店、なじみの理髪店、時にはパチンコ店まで出かけることがある。施設の中だけで過ごさず、出来るだけ入居者の希望に沿って外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き施錠していない。入居者が外に出ようとしても、事務所前を必ず通るので気づくようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の防災・避難訓練をグループホーム、デイサービス合同で年2回、消防署の指導のもとに行なっている。とくに夜間、2階ユニットからの避難は危険と混乱が予想されるため、自治会長も参加している運営推進会議で地域の救援協力を要請し、災害時には消防団の人たちが駆けつけてくれることになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた栄養摂取のため、毎回の食事の量をひとり確認している。大切な水分確保では、とくに水分制限のある入居者や利尿剤服用者の水分補給に注意を払うなど、入居者個々の状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設デイサービスと共用の玄関や廊下、リビングなどにはボランティアの協力による季節の花や入居者作品の絵や折り紙などが飾られている。夏はスズムシを玄関先で飼い、家族にも好評だった。リビングのほか廊下やエレベーターホールにもソファを置き、入居者の居場所の工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド、カーテン、エアコンのほかは、入居者が家で使い親しんだ家具、調度品が持ち込まれ、居心地のよさを感じられた。部屋の換気や室温調節も職員がこまめに行なっている。		